

# 令和6年度 第3回富山県総合教育会議

日 時：令和6年8月30日（金）14:30～16:00

場 所：県庁4階大会議室

## 次 第

1 開 会

2 知事挨拶

3 議 事

- (1) 県立高校における教育振興について
  - 学科・コースの見直しについて
  - 様々なタイプの学校・学科について
  - 県立高校再編の進め方について

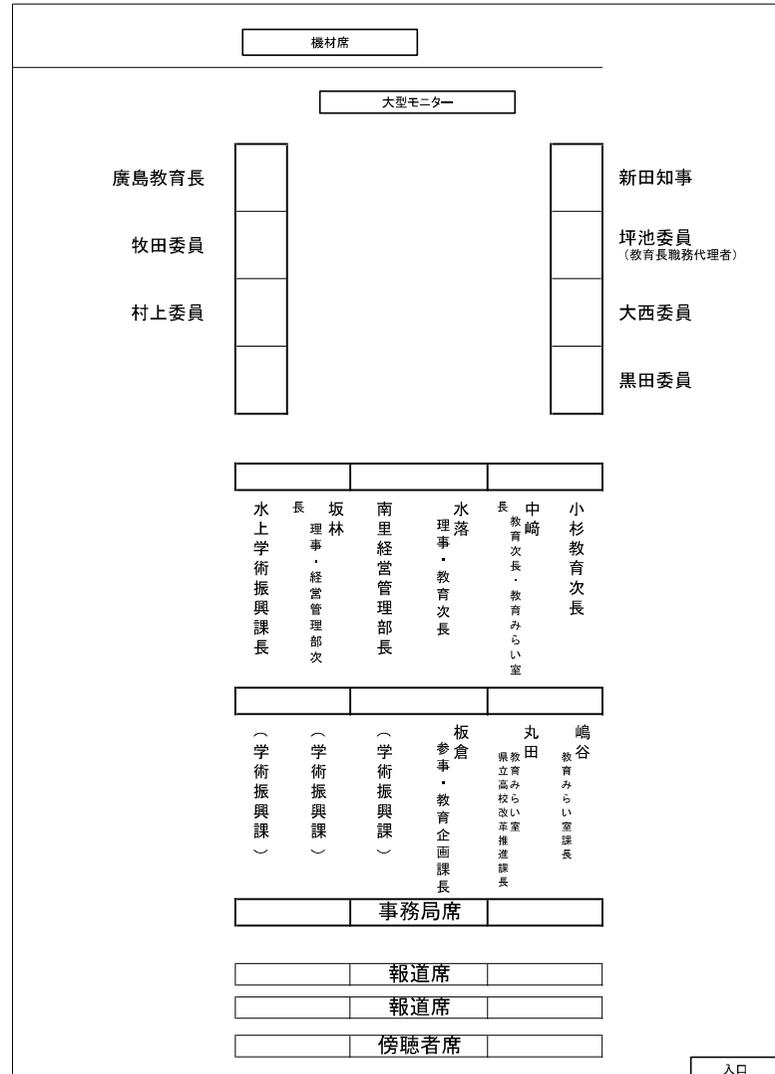
4 閉 会

### <配付資料>

- 資料1 地域の教育を考えるワークショップ及び意見交換会 開催結果
- 資料2 工業科、農業科に関する提言と意見
- 資料3 速やかに取り組む学科・コースの見直し
- 資料4 普通系学科、商業科、その他学科に関する提言と意見
- 資料5 様々なタイプの学校・学科に関する提言と意見
- 資料6 様々なタイプの学校・学科を設置する場合の必要年数
- 資料7 県立高校再編の検討に関する提言と意見
- 資料8 県立高校再編の進め方について(案)

# 令和6年度第3回富山県総合教育会議 配席図

日時 令和6年8月30日(金) 14:30～16:00  
 場所 県庁4階大会議室



令和6年度第3回富山県総合教育会議 出席者名簿

(敬称略)

(委員)

職名	氏名	備考
富山県知事	新田 八朗	
富山県教育長	廣島 伸一	
富山県教育委員 (教育長職務代理者)	坪池 宏	元富山県教育次長
富山県教育委員	村上 美也子	医師
富山県教育委員	大西 ゆかり	社会福祉士
富山県教育委員	黒田 卓	大学教授
富山県教育委員	牧田 和樹	会社社長

(有識者等)

レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長 C I O	藤野 英人	
------------------------------------	-------	--

## 地域の教育を考えるワークショップ及び意見交換会 開催結果

### <ワークショップ>

#### 第1回ワークショップの概要

【新川学区】 5月27日（月）14時～16時：新川文化ホール

【砺波学区】 5月29日（水）14時～16時：砺波市文化会館

【高岡学区】 5月30日（木）14時～16時：高岡文化ホール

【富山学区】 6月 3日（月）14時～16時：富山県民会館

グループワーク① 「提言」及び「県立高校の目指す姿」について

グループワーク② それぞれの学区の目指す姿について

#### 第2回ワークショップの概要

【富山学区】 6月28日（金）10時～12時：富山県民会館

【新川学区】 7月 2日（火）14時～16時：スカイホテル魚津

【高岡学区】 7月 9日（火）14時～16時：高岡エクール

【砺波学区】 7月10日（水）10時～12時：サンキュア・ミューホール

グループワーク① 学科・コース

グループワーク② 様々なタイプの学校・学科、特色・魅力ある学校づくり

### <意見交換会>

【高岡会場】 令和6年8月 4日（日）10：00～12：00 参加者55名：発言者14名（実人数11名）、書面によるご意見43名

【富山会場】 令和6年8月 6日（火）19：00～21：00 参加者50名：発言者17名（実人数12名）、書面によるご意見27名

【新川会場】 令和6年8月 8日（木）19：00～21：00 参加者46名：発言者15名（実人数8名）、書面によるご意見19名

【砺波会場】 令和6年8月10日（土）10：00～12：00 参加者57名：発言者10名（実人数10名）、書面によるご意見38名

#### 意見（290件）：詳細は別紙（参考資料）に掲載

- ・県立高校の目指す姿に関するもの 87件
- ・学科・コースの見直しに関するもの 58件
- ・様々なタイプの学校・学科に関するもの 59件
- ・その他 86件

## 工業科、農業科に関する提言と意見

### <工業科>

#### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

工業科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>社会の変化に応じた学科、コースへの改編</u> <u>デジタルものづくり、工業デザイン、防災・社会基盤維持など</u></li> </ul>
<p>○学科・コースの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I T技術や産業用ロボット等を活用した<u>デジタルものづくり</u>を推進する担い手を育成するため、教育内容の充実を目指す。</li> <li>・ 大学などの高等教育機関や地域など、<u>学校外との連携</u>の充実を目指す。</li> <li>・ 現在行っている新たな取組みを踏まえ、<u>中学生により魅力が伝わるような学科改編や学科名の変更</u>について検討することが望ましい。</li> <li>・ 近年多発する自然災害等を踏まえ、<u>各学区で防災や社会基盤の維持などについて学ぶことができるよう</u>、教育課程の変更やコースの新設について検討することが望ましい。</li> <li>・ 地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる担い手の育成等ができるよう、<u>工業デザインに関する学科やコースの新設</u>について検討することが望ましい。</li> </ul>	

#### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

- 地域連携という視点では、デュアルシステムも取り入れながら、学校では座学、企業では実習という取組みも考えられる。
- 地域の安全・安心を守るという点で、除雪、災害対応にあたる人材が高齢化している。そうした視点の大切さを若い人に学んでもらうため、建設系の学科を設置してほしい。
- 企業では、建築、デザイン、土木など様々な分野に女性がいる。斬新なネーミングにすることで工業高校に進む女子生徒もいる。
- 中学生にとっては、電気や機械などに分かれていることに抵抗感がある。そういうことも考えて学科・コースや学習内容を考えていく必要がある。
- ◆新しい工業系学科を検討していただきたい。科学技術高校なども必要ではないか。他県とは異なる富山県版の科学技術高校に期待する。
- ◆学科、コースの特色や教育内容見直しは専門学科では大変重要。ただし、指導できる環境(ソフト、ハード)をセットで考える必要がある。
- ◆産業への就業が重視されているが、基礎をしっかりと身に付け、創造性が豊かな教育の実施を求める。広く浅くでもよいのではないか。

## <農業科>

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

<b>農業科</b>	<b>・テクノロジーを生かした農業教育の実践 SDGsの実践、AIやIoTの利活用、スマート農業技術の導入など</b>
○学科・コースの見直し	
・SDGsの実践、AIやIoTの利活用、 <u>スマート農業技術の導入</u> など、これからの農業に向けた知識や技術を身につけることができるよう教育内容の充実を目指す。	
・大学などの高等教育機関や地域など学校外との連携の充実を目指す。	
・テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程を検討することが望ましい。	

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

- 農業は科学技術の進展により、これまでの農業とは違ってきている。生産だけでなく、流通、販売までを視野に入れた教育課程が必要。
- 他の職業科と連携し、様々な学習を体験できる農業科があってもよいのではないか。
- 中学生と高校生が直接接することで体感し合えるようなプログラムができないか。スマート農業体験や収穫体験のように、小中高で連携した授業を通して、発展的な学びを生み出す農業科があってもよいのではないか。
- ◆儲かる農業を専門的に教えてほしい。
- ◆農業科の魅力化として「テクノロジーを生かした農業教育」と書かれている。この他、畜産、6次産業化、IT、工業デザインなど様々あるが、専門職員、専門施設をどうしていくかが見えてこない。

## 速やかに取り組む学科・コースの見直し 【工業科】

- 入学した後、自分に合った学習内容を選択できる「一括募集」の導入を行うもの。
- また、近年志願者が減少する中、社会のニーズ(能登半島地震等による防災や社会基盤づくりの重要性の高まりや、企業との連携協力、工業デザイン、持続可能な社会の実現など)に対応した教育課程の実現に向け、今年度採択された高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)により導入する予定の新たな設備を教材化し、生徒にとって魅力ある学科・コースへの見直しを行うもの。

### 1. 砺波工業高校

改編内容		充実させる取組み
現状	見直し後	
<p>入学時～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○機械科</li> <li>○電気科</li> <li>○電子科</li> </ul>	<p>入学時</p> <p style="text-align: center;">工業科 (<b>新</b>一括募集)</p> <p>1年次後半～3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>新</b>建設系・総合工学系の学科(仮称「地域デザイン学科」) <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路・河川等の社会基盤の維持や防災、建築物の設計・施工について学ぶコース(仮称「都市デザインコース」)</li> <li>・数理分野や工学の基礎分野を学び、進学に対応したコース</li> </ul> </li> <li>○機械工学を核として、電気工学、電子工学、情報工学の知識・技術を融合し総合的に学ぶ学科  <small>主に、機械設計・加工技術・自動制御などについて学ぶ</small> </li> <li>○電気・情報系の学科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気エネルギー(発電・送配電等)の理論と技術について学ぶコース</li> <li>・情報通信は制御の先端技術(AIやIoT等)について学ぶコース</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>新</b>一括募集の導入により、入学後に工業に関する幅広い知識を学んだ上で、生徒の興味・関心のある学科・コースが選択できる</li> <li>・<b>新</b>砺波学区における建設系学科の新設</li> <li>・企業と連携した授業や実習の充実を図る</li> <li>・<b>新</b>工学系等への進学に対応したコースの新設</li> <li>・機械科の学びに電子の要素を加え、機械と電気・電子を一体的に学ぶ</li> <li>・AI、IoTを活用した生産技術や自動運転技術などを学ぶ</li> </ul>

## 2. 魚津工業高校

改編内容		充実させる取組み
現状	見直し後	
<p>入学時～</p> <p>○機械科</p> <p>○電気科</p> <p>○情報環境科 ・電子機械コース ・化学工業コース</p>	<p>入学時</p> <p>工業科 (<b>新</b>一括募集)</p> <p>1年次後半～3年次</p> <p>○機械に関する知識や理論のほか、先端技術を用いた創造的なものづくりについて学ぶ学科</p> <p>○電気・電子・情報系の学科 ・発電・送配電などの電力インフラを支えるために必要な知識・技術について学ぶコース ・電気・電子回路の設計製作、組込みプログラムを利用したコンピュータ制御について学ぶコース</p> <p>○IT・環境系の学科 (仮称「IT・環境化学科」) ・<b>新</b>プログラミングや工業デザイン、シミュレーション技術について学ぶコース(仮称「ITシステムコース」) ・化学に関する知識・理論や機器分析、環境保全について学ぶコース</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>新</b>一括募集の導入により、入学後に工業に関する幅広い知識を学んだ上で、生徒の興味・関心のある学科・コースが選択できる</li> <li>・様々な加工技術の学びを通して、デジタルものづくりを推進できる力を身に付ける</li> <li>・製造現場や工事現場においてITを活用した問題発見・問題解決を図ることのできる力を身に付ける</li> <li>・<b>新</b>プログラミング、インダストリアルデザイン、VRなどシミュレーション技術分野の学習</li> <li>・地域連携を取り入れた実習、フィールドワーク、探究活動の充実</li> <li>・環境問題や地域課題の解決に取り組む力を身に付ける</li> </ul>

## 速やかに取り組む学科・コースの見直し 【農業科】

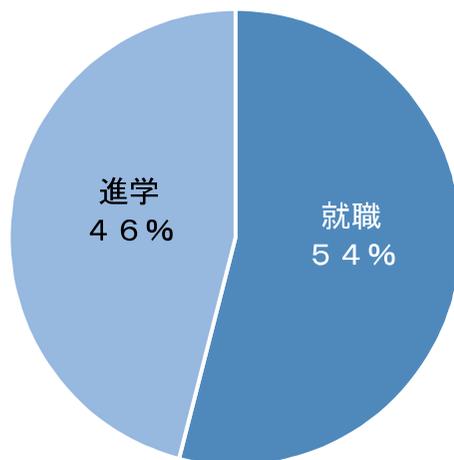
中央農業高校では平成15年度以降、20年以上も大きな学科改編が行われていないため、社会の変化やニーズに対応するとともに、中学生にとってわかりやすく、より学んでみたいと思えるような学科・コースに再整理するもの。

### 中央農業高校

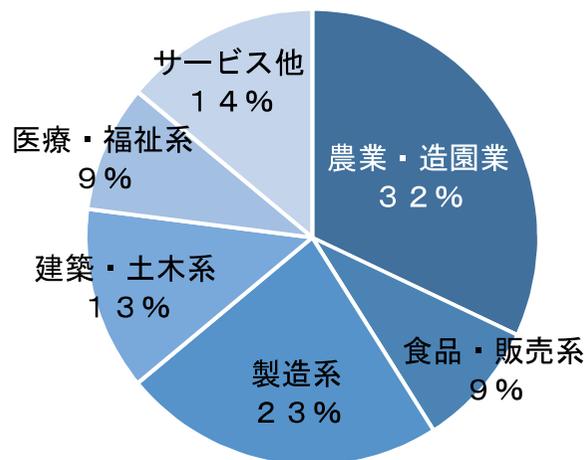
改編内容		充実させる取組み
現状	見直し後	
<p>1年次 2年次～3年次</p> <p>農業科（一括募集）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生物生産科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・作物科学コース</li> <li>・動物科学コース</li> </ul> </li> <li>○園芸デザイン科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸福祉コース</li> <li>・環境緑化コース</li> </ul> </li> <li>○バイオ技術科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物工学コース</li> <li>・食品加工コース</li> </ul> </li> </ul>	<p>1年次 2年次～3年次</p> <p>農業科（一括募集）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○植物の栽培に関する学科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・主穀作、園芸作物（野菜）の栽培から販売について学ぶコース</li> <li>・鉢花生産及びバイオ技術を習得し、花卉の栽培から販売、遺伝子資源の保存について学ぶコース</li> </ul> </li> <li>○動物の飼育に関する学科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉牛の飼育や畜産経営等について学ぶコース</li> <li>・<b>新</b>小動物の飼育や保護等について学ぶコース（仮称「小動物コース」）</li> </ul> </li> <li>○植物の活用に関する学科           <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産食品の製造・開発等について学ぶコース</li> <li>・造園技術を活用した空間緑化による環境保全・創造等について学ぶコース</li> </ul> </li> </ul>	<p>○すべての学科・コースでの高等教育機関、関連機関・施設と連携した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業を活用した農業経営に必要な知識、技術の習得</li> <li>・「富山県農業・農村振興計画」に示された今後の方向性（水田での園芸作物振興による収益力向上等）を踏まえた学習の展開</li> <li>・地球環境に配慮した持続可能な農業経営や複合経営を担うことのできる力の習得</li> <li>・GAPに準拠した畜産経営ができる力の習得</li> <li>・高品質和牛（とやま酒粕育ち）生産の知識、技術の習得</li> <li>・<b>新</b>愛玩動物に関連した飼育、活用、保護に係る知識、技術の習得</li> <li>・HACCPに対応した食品の安全性の確保と品質管理ができる知識、技術の習得</li> <li>・新たな県産食品を創造できる力の習得</li> <li>・植物等を活用した環境保全・創造に係る知識、技術の習得</li> </ul>

(参考) 中央農業高校の卒業後の進路 (令和5年3月卒業生) ※学校HPより引用

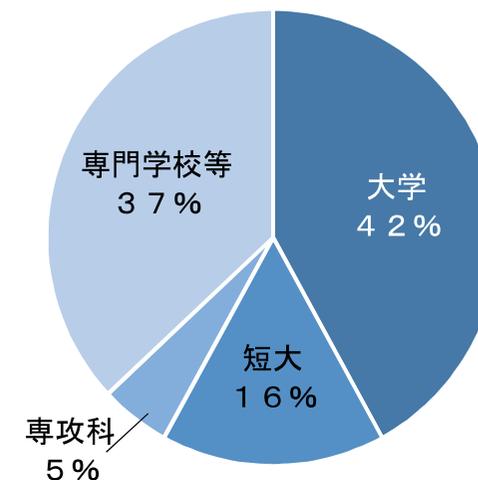
(進路別状況)



(就職状況)



(進学状況)



農業関連進路

《就職》

- (有) 営農ワイエムアイ、桑原牧場、山本牧場、ホクト株式会社
- (有) グリーンパワーなのはな
- ヤンマーアグリジャパン(株)
- 全国農業協同組合連合会富山県本部
- ヤマサン食品工業(株)
- 伊藤ハムデイリー(株)北陸工場

農業関連進路

《進学》

- 酪農学園大学、東京農業大学、長浜バイオ大学

## 普通系学科、商業科、その他学科に関する提言と意見

### <普通系学科>

#### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

普通系学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のニーズや社会の変化を踏まえた学科、コースの新設 データサイエンス、グローバル、地域連携など</li> </ul>
<p>○学科・コースの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のニーズや社会の変化を踏まえ、次のような視点に立った学科・コースの見直しや新設を検討することが望ましい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「情報活用」や「データサイエンス」についての基礎を学ぶことができる。</li> <li>➢ グローバル化の進展に対応できるよう、文系、理系を問わず英会話力を高めつつ、探究活動に取り組むことができる。</li> <li>➢ 大学などの高等教育機関等との連携により、人の成長や発達について学ぶことができる。</li> <li>➢ 進路希望に合わせて、多様な科目の中から選択して学ぶことができる。</li> <li>➢ 地域と連携し、地域課題等をテーマとした探究活動を行うことができる。</li> <li>➢ スポーツに深い関心を持つ生徒が、個々の能力を最大限に発揮できるよう、スポーツに関する様々な種目・理論を幅広く学習することができる。</li> </ul> </li> </ul>	

#### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

- 普通科をどう魅力化するかが一番大事。普通科の教育にも学校単位の個別性をもっと出してもいいのではないか。
- 普通科の良さは幅広く教養を学べる点。STEAM教育やデータサイエンスなどの統計的な知識を学ぶことが大切。
- 文系理系を問わずデータサイエンスの素養が求められているため、早い段階から科目として学習する必要がある。
- 環境、地域、経済、観光など地域の資産をターゲットにした探究活動の時間を増やししながら、進学にもシフトしていけるような普通科をつくるべき。
- 普通科の中に、就職を考えるコースがあると、目的意識をなかなかもつことができない生徒にとってもよいのではないか。
- ◆中学段階で明確な将来を見つけられないので普通科へ行くのであり、普通科に特色を求めることは違う。
- ◆普通科に特色は不要。どこへ行っても変わらない普通科があればよい。
- ◆普通科志向が高いのであれば、普通科のある高校の数を絞り、コース等も含め、カリキュラムを工夫して各校に特有の特色を持たせるとよい。

## <商業科>

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

<b>商業科</b>	<b>・ 社会の変化に応じた学科、コースへの改編 起業家精神を学ぶ取組みの充実、普通科コース等への改編など</b>
<p>○学科・コースの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 起業家精神を学ぶ取組みの充実を目指す。</li><li>・ 商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。</li></ul>	

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

- 商業科の進学率が高いので、普通科コースにして一括募集し、入学後に選択する方法が分かりやすい。
- 地元の企業などと連携し、コースの中で学ぶことができれば、地元で根付く生徒を普通科の中でも育てていけるのではないかな。やりたいことがあるわけではない生徒が行ける普通科があるとよい。
- 普通科でありながら、商業系や工業系など様々な専門分野を後から選択できるような学校を新しく作ってはどうか。高校入学後の様々な可能性に繋がる。
- アントレプレナーシップは主体的な学びとつながる。これまで受けた教育で起業しようとは思わない。チャレンジ精神を育ててはどうか。
- ◆アントレプレナーシップ教育について単に起業家精神、起業家育成にとらえず、正しく広めてほしい。
- ◆普通科に入学後、職業系コースや進学系コースを選択できるとよい。

## ＜その他学科＞

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

水産科	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代のニーズを取り入れた水産教育の実践 6次産業化、環境保全型の水産業に関する研究など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化や関連産業に寄与する生徒の育成を目指す。</li> <li>環境保全型の水産業に関する課題解決に向けた研究、実践の充実を目指す。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェルビーイングを向上させる取組みの充実 課題解決型学習の充実、地域やNPO法人等との連携など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動により身に付いた衣食住、保育、福祉等の知識・技術を社会生活に生かし、家族やコミュニティの連帯感を育むことで人々のウェルビーイングを向上させることができる取組みの充実を目指す。</li> <li>SDGsに関連するエシカル消費や共生社会など実社会における課題解決等をテーマとし、課題研究のさらなる充実を目指す</li> </ul>
看護科	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新医療教材を用いた学習活動の充実 医療現場に近い学習機会の拡充、地域の医療機関との連携など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させ、看護実践能力を育成することが望ましい。</li> <li>多様な臨地実習先において、様々な職種の人々との協働的な経験を通してコミュニケーション能力や豊かな人間性を育成することが望ましい。</li> </ul>
福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代の変化に対応できる介護福祉士の育成 チームケアを意識した協働的な学習の充実など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる生徒を育成することが望ましい。</li> <li>多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実を目指す。</li> </ul>
総合学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列での学びを通じた専門性の向上と主体的な課題探究型の学びの充実 時代の変化等に応じた系列の整備、キャリア教育の推進など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列での学びを通じた専門性のさらなる向上と、生徒が自己の興味・関心に応じて主体的に選択して学習できるという特性を生かした課題探究型の学びの充実を目指す。</li> <li>系列については、時代の変化等に応じた生徒それぞれの興味・関心、進路等に合ったものになっているか検証しつつ、地域の特性を生かしたものとなるよう検討することが望ましい。</li> </ul>

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

- 出口である進学か就職かで高校を選ぶのではなく、高校時代に学びながら進路を選択できるような学科を設置してはどうか。
- 総合学科の特色を出すのが難しい。進学なのか就職なのかの出口が見えにくい。魅力化がなされたらよい。
- 部活動や行事に特化した高校を作ってはどうか。
- 特色ある学科があるとよい。(例) マンガ学科、アニメーション学科、鉄道学科など

## 様々なタイプの学校・学科に関する提言と意見

### <中高一貫教育校>

#### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

##### 中高一貫教育校

教育活動全般を通じた全人教育を目標とし、6年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校は、多くの都道府県で設置されており、現在、公立中高一貫教育校がない県は、富山県を含め2県だけになっている。

生徒の選択肢を広げることや社会を変革するリーダーの育成等の観点から、設置に積極的な意見がある一方、市町村立中学校の学級編制等への影響から慎重に考えるべきとの指摘があることから、市町村教育委員会を含めた関係機関と協議しながら、引き続き、検討する必要がある。

#### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

積極的なご意見	消極的なご意見
<p>○中高一貫校は6年間で柔軟なカリキュラムを作って学べることがメリット。</p> <p>○中学生にとっては、高校生を身近に見ることができるため、自然な形で上級生の姿を浸透させることができる。</p> <p>◆中高一貫教育校にはメリット・デメリットがあるが、<u>富山県の風土などに合ったものを検討してほしい。</u></p>	<p>○生徒の減少が部活動の減少や学級編制の困難さに結びついている公立中学校が増加する中で、<u>地域の生徒がさらに少なくなるといった課題をしっかりと整理する必要がある。</u></p> <p>○県全体では必要だが学区ごとに設置する必要はない。</p> <p>◆中高一貫教育校を選ぶかどうか、中学校へ行く段階で決めなければならない。富大附属中学のように、中学受験をして入学生を決める必要があるかどうかを考えてもらいたい。</p>

## 【参考】中高一貫教育校を設置する場合に考えられるもの

- ① 自ら学ぶ姿勢と確かな学力の育成(探究活動、知的好奇心、学ぶ意欲、科学的思考力や探究力、課題解決能力、自己表現力等を身に付ける)
- ② 国際化への対応力の育成(コミュニケーション能力の育成、国際交流活動や国際理解、国内研修・海外研修、国際バカロレアやケンブリッジ)
- ③ 充実した体験活動(勤労体験(14歳、17歳の挑戦を拡充、企業見学)、自然体験、ボランティア体験、社会体験)や、キャリア教育(養成講座(医療系、工業系、法曹系))の実践

### (他県の例)

<p>茨城県立 水戸第一高等学校・ 附属中学校</p>	<p><b>社会の変化に対応するだけでなく社会に变革をもたらす、グローバルな視点をもって茨城から世界に羽ばたく、高い志をもって地域医療をはじめ地域課題の解決を先導する、といった形で社会に貢献できる者を育成する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間に、中学生と高校生の混成グループで探究活動を実施。</li> <li>・複数の学校行事を附属中学と高校が一緒に実施。</li> <li>・ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用した教育効果の高い学習指導。</li> <li>・中学校では、中高一貫用の教材を補助教材に使用。</li> <li>・高校は単位制(2学期制)。医学部進学コースを設置。</li> </ul>
<p>宮城県 仙台二華中学校・ 高等学校</p>	<p><b>次世代の国際社会に通じるグローバル人材の育成を目指すとともに、国際的な課題研究の取り組みや、国際バカロレアの理念にもある多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、地域社会や日本、世界に貢献する学校を目指します。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東北の公立高校では初めてDP(国際バカロレア高校レベル)に認定。(高校2年時からの選択制で定員は25人)</li> <li>・国際関係・リベラルアーツではなく、海外大学の通常の学部・学科(医・工・農・経済等)進学を目指す。</li> <li>・SGH指定校(平成26~30年度)の頃から「世界の水問題への解決」に関する課題研究を行っており、海外での活動や学びに意欲的な生徒が多い。</li> <li>・「課題研究」では全員が企業や大学等との外部連携を必須としている。</li> <li>・中学校では、国際交流活動により異文化理解と国際視野を深める。</li> </ul>
<p>学校法人帝塚山学院 中学校・高等学校 (女子校・大阪府)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の「総合的な学習」の時間を利用し、学習の基礎的なスキルを身に付けるとともに、「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」の養成をめざす。中学3年間を通じて、「14のスキル」を身につけ、高校での発展的な学習に向かう。</li> <li>・高校では、中学で身に付けたスキルを活かし、さらにその学びを深める。</li> <li>・生徒たちが将来進むべき道を探していく「キャリア教育」の場ともなるよう、9つの系統(①国際関係、②文学・語学、③法学・社会学、④経済・経営・商学、⑤歴史・芸術系、⑥教育学・心理学・保育系、⑦食物・環境系、⑧医歯薬・看護・医療系、⑨理工系)の探究・実践型の選択授業を展開。</li> </ul>

## ＜国際バカロレア (IB) 認定校等＞

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

#### 国際バカロレア (IB) 認定校等

国際バカロレアについては、グローバル人材を育成するための有効な方策の一つであり、生徒の選択肢が広がり、国内外への進路の多様化に途を開くという利点がある一方、教師と生徒双方に高い外国語能力が求められ、高度な指導ができる教員の確保が難しくカリキュラム開発等に時間がかかるなどの課題もある。

グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働し、課題の発見、問題解決をしていくという機会があることは重要だが、日本の学習指導要領とのマッチングや英語の人材の確保、エキスパートの招聘、予算の創出等の課題が多いことも踏まえて、設置のメリットとデメリットを精査する必要がある。

なお、英語・グローバル教育を推進するため、国際バカロレアのグローバル化に対応した教育プログラムも参考に、普通科等において、高い英会話力を育むとともに、探究活動に取り組むことができる学科・コースの充実や新たな学科の設置を検討することが望ましい。併せて、国際バカロレア認定校の設置等、国際教育プログラムの導入についても引き続き研究する。

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

積極的なご意見	消極的なご意見
<p>○企業も国際化に力を入れている。海外から戻ってきた人の選択肢にもなるのではないか。</p> <p>○IB資格の取得のハードルは高いが、バカロレアで行われる双方向・協働型の学びのスタイルは現代の授業では非常に重要な考え方。</p> <p>◆グローバル人材の育成は重要であり、国際バカロレア認定校は県内に1校あってもよいと思うが、学習指導要領とのマッチングや海外留学の際の保護者負担などハードルは高い。まずは、現在も行われている海外研修やオンラインを含めた国際交流など、探究学習の充実やグローバル人材の育成を加速していくことがよい。</p>	<p>○需要と供給のバランスの視点で検討すべき。現在も国際科が設置されているので差別化が必要。</p> <p>○国際バカロレア認定校は、少人数の生徒にしか対応できない。ニーズがあるかもわからない状態であり、出口(卒業後の進路)をしっかりと示さなければ、希望者は集まらない。</p> <p>◆国際バカロレア認定校は子どもの選択肢にとってはよいことだと思うが、<u>人的、資金的にリソースが限られている中、県がお金を使って、卒業後に県外や海外に出て行ってしまう人材を育てるべきなのか。</u></p>

## ＜外国人生徒に係る特別入学枠＞

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

#### 外国人生徒に係る特別入学枠

外国人生徒に係る特別入学枠については、外国人生徒の受検者に対して特別枠を設定し、入学者選抜における検査項目の軽減や特別の教育課程等を実施している都道府県もある。

外国人生徒に係る特別入学枠の先行事例を見ると、受入れにあたっては、日本語による日常会話ができることを前提とする場合が多く、入学後は、一部の授業を他の生徒とは別に行うことや、日本語指導を行うこともある。

実施にあたっては、外国人生徒の教育課程や日本語指導など、入学後の支援についても検討する必要がある。このため、本県において外国人生徒数が増加傾向にある状況等を踏まえ、特別入学枠の導入に向けて、検討を進める必要がある。

また、日本語習得などの高校入学前の支援体制を整備することが望ましい。

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

積極的なご意見	消極的なご意見
<p>○製造業が多い富山県のことを考えると、外国人の対応について検討するのがよい。</p> <p>○安心して学べる環境を作ってあげたらいい。</p> <p>◆外国人労働者が増え、一緒に生きていくとなれば相互に関われる学習も必須になる。ルビをふるだけの対応ではお粗末に感じる。</p> <p>◆外国人生徒を受け入れる場合、日本語での学習を深められるように、<u>日本語を育成する場を学校の内外に設ける必要がある</u>。</p>	<p>○受け入れる現場の先生の負担も大きい。</p>

## <全国募集>

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

#### 全国募集

全国募集については、特色のある学科・コース等において、県外からの受検者に対して県外枠を設定し、意欲ある学生を全国から募集をしている都道府県もある。

全国募集の先行事例を見ると、生徒単独の移住を前提とした受入れを行っている例もあるが、生徒受入れの宿泊施設や生徒の食事など日常生活の世話をする人材や体制、経費等の課題がある。また、高校と地域とをつなぐコーディネーターも配置されており、これらの人材配置や生徒募集に継続的な費用が必要となることから地域の協力も不可欠である。

実施にあたっては、県外生に対して、寄宿舎または地域と連携した宿泊施設を利用可能とする受入れ体制の構築などを検討する必要がある。このため、現在南砺市から要望のある南砺平高校における実施を目指し、引き続き、検討を進める必要がある。

### 2. 意見 (○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見)

積極的なご意見	消極的なご意見
<p>○部活動や学科に特色のある学校で全国募集をしてはどうか。</p> <p>○全国募集の受入れについて、富山に移住したい人たちのニーズに乗り、広げていけたらいいのではないか。</p> <p>◆南砺平高校で全国募集をするのであれば、世界遺産があるので観光関連の起業など観光資源を活かせるコースや学科があるとよい。</p> <p>◆部活動に特化して、県外から生徒が来られるように寮を建設してはどうか。</p>	<p>○全国募集は選択肢を広げるという点では大事だが、子ども達が減る中、生徒の取り合いになり解決には至らない。</p>

様々なタイプの学校・学科を設置する場合の必要年数

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
中高一貫 教育校	方向性決定 対象校決定		説明会開催	開校					
	教育課程の検討								
			在籍生徒	中1	中1～中2	中1～中3	中1～高1	中1～高2	中1～高3
	施設改修※ (中学生用教室、給食用エレベーター 技術室など)								
国際 バカロレア 認定校	対象校決定	候補校申請 候補校認定	コンサルタント訪問	認定 説明会開催		DP授業開始 (2年次スタート)			
	教員研修参加 (5名程度)	教員研修参加 (5名程度)	教員研修参加 (5名程度)	教員研修参加 (3名程度)	教員研修参加 (3名程度)	教員研修参加 (3名程度)	教員研修参加 (3名程度)	教員研修参加 (3名程度)	教員研修参加 (3名程度)
			在籍生徒		1期生入学	2期生入学	3期生入学 1期生卒業		
	施設改修※ (IB生専用教室、認定基準を満たす実験室 及び図書館等)								
外国人生徒 に係る 特別入学枠	対象校決定								
	教育課程の検討								
			在籍生徒	1期生入学	2期生入学	3期生入学 1期生卒業			
	必要備品準備								

※他県の施設改修により設置した場合の年数を参考に作成

## 県立高校再編の検討に関する提言と意見

### 1. 県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)

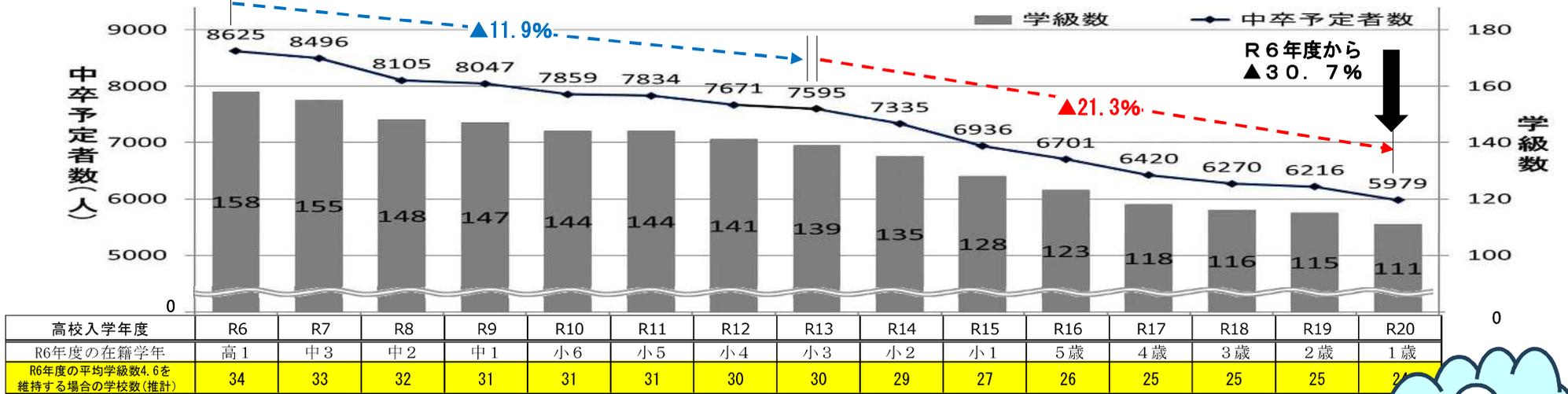
#### 再編検討の方向性

- 県立高校の目指す姿の実現に向け、学科改編や再編統合等により、魅力と活力ある学校づくりを推進するため、学びの質を向上し、教育体制を整備できるよう検討を進める。  
また、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための検討を進める。
- 現在の学校数を維持した場合、今後、多くの県立高校が小規模校となることが予測されることを踏まえ、学校規模が、1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。  
ただし、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）を考慮して検討する。  
さらに、令和15年度以降の中学校卒業予定者数の推定値の急激な減少に鑑みると、より長期的な展望に立って様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための高校再編を検討するには、学校規模が、1学年4学級以下又は160人以下の規模の学校についても再編統合の検討の対象とするなど、検討の範囲を広げることも考えられる。

### 2. 意見（○：地域の教育を考えるワークショップでの意見、◆：地域の教育を考える意見交換会での意見）

- 魅力ある高校づくりが「主」で、その結果としての再編統合は「従」である。その目的と手段を逆にするとおかしなことになる。
- 中学生の志向・動向を分析し、既存の学校を念頭に置かず、ゼロベースで望ましいあり方を検討すべき。
- 魅力ある再編といったときには、生徒中心に考えなければならない。5年後ではなく、15年後を見据えて、思い切った改革をしなければならない。
- ◆10年後、20年後の日本、富山、地域を見つめ、教育をどうしていくべきかを考え始めていく必要がある。
- ◆生徒は多様である。「通学可能な地域内に高校をバランスよく配置し、様々なタイプの高校を整備し」生徒に幅広い選択肢を用意することが再編の基本と考えている。
- ◆全日制のみでなく、定時制、通信制、特別支援学校、私立も含めた議論にしなければならないのではないかと。
- ◆幅広い選択肢を確保するために、小規模から大規模の学校が必要。
- ◆小規模の学校には魅力がある。小規模だからこそ、たくさんの生徒と関わり、たくさんのことにチャレンジできる。
- ◆他県に比べると、富山県の学級数は大規模と言われる学校が少ない。10学級くらいの学校を目指した方がよいのでは。たくさんの生徒がいることで多様性を学ぶよい機会である。

### 県立高校再編の進め方について(案)



進め方の  
イメージ案

② ① 目指す姿の実現に向け、バックキャストिंगで段階的に「県立高校の配置の姿」を描く

R8 までを見通した前回(R2)の再編

①の10年程度前の姿

①の5年程度前の姿

① 「県立高校の目指す姿」を描く

① 県立高校での教育内容

② 県立高校の配置  
 ・どんな「学科構成」を  
 ・どんな「規模」で  
 ・どんな「エリア」に

③ ① ②に基づいた取組みを推進



## 地域の教育を考える意見交換会

### 1. 開催結果

- 【高岡会場】 令和6年8月 4日(日)10:00~12:00 参加者55名：発言者14名(実人数11名)、書面によるご意見43名
- 【富山会場】 令和6年8月 6日(火)19:00~21:00 参加者50名：発言者17名(実人数12名)、書面によるご意見27名
- 【新川会場】 令和6年8月 8日(木)19:00~21:00 参加者46名：発言者15名(実人数8名)、書面によるご意見19名
- 【砺波会場】 令和6年8月10日(土)10:00~12:00 参加者57名：発言者10名(実人数10名)、書面によるご意見38名

### 2. 意見(290件)

県立高校の目指す姿に関するもの(87件)	学科・コースの見直しに関するもの(58件)
基本的な考え方(賛成1、さらに検討2)	入学後に学習内容を選択(変更)できる仕組み9
将来を見通した再編が必要3	普通科の特色化(提案7、反対3)
一定の通学時間内の高校から多様な選択ができるとよい11	職業系専門学科(企業との連携など)3
大規模校の設置(賛成12、大規模とは何クラスか2)	工業科(専門性、少人数、魅力化の必要性、一括募集など)5
小規模校(賛成2、全て小規模校はよくない2)	農業科(学習内容)1
高校と地域振興について6	特色化・魅力化に必要な人材、施設設備6
学校外との連携が必要4	その他、各学科・コースの見直しに関する様々な視点24
小中学校・定時制・通信制・特別支援学校・私立高校等も含めた議論が必要5	
高校の魅力化・特色化(必要5、不要5)	
その他、県立高校のあり方に関する様々な視点27	

様々なタイプの学校・学科に関するもの（５９件）	その他（８６件）
中高一貫教育校の設置(賛成４、検討３、反対３)	様々な声を聞くべき(生徒・保護者・教員・女性・地域等) ２６
国際バカロレア認定校(賛成１、参考にすべき３、反対３)	志願倍率・進学就職実績・偏差値による学校評価からの脱却 １２
外国人生徒に係る特別入学枠(賛成２、受入れ後の対応 １)	少人数学級 (推進・検討 ８、必要性を感じない ３、学校規模の議論と分けるべき １)
全国募集の提案・整備・充実・拡大 ９	県外流出への懸念(分析と対策) ７
多様な生徒(不登校、発達障害、外国籍)に対する対応 １ ７	公共交通機関の整備・通学費の補助 ６
部活動に特化した学校の設置 ６	情報発信の必要性 ６
そのほか、様々なタイプの学校・学科に関する様々な視点 ７	入試の見直しが必要 ５
	再編の財源確保(施設整備) ６
	教員の負担軽減・教員の質の確保 ３
	意見交換会の運営に関するご意見 ３

内容	ご意見
県立高校の基本的な考え姿（目指す姿）	「切磋琢磨」は、もはや今の生徒に合わない。競争を強いるのではなく、他者理解と協力・共生を進めることが重要。
	地域を形成する大切な一員となる、障害のある子どもたちやそうした子どもたちとともに地域を形づくる高校生段階のすべての子どもが、高校時代にどこでどのように何を学ぶことが地域の将来のためになるのか、議論の片隅に交えてほしい。
	「基本方針」がこれからも基盤になるようであればよい。大きな流れとしては賛成。
	幅広い選択肢を提供していくことは必要ではあるが人口減対策が喫緊の課題。地域の担い手を確保していく観点も大切にしてほしい。
	地方創生に地元の高校の果たす役割が大きく、地域から期待されている学校がある。地域の特性を配慮する視点も大切にしてほしい。
	全日制のみでなく、定時制、通信制、特別支援学校、私立も含めた議論にしなければならないのではないかな。
	県立高校だけでなく、私立高校、高専も含めて議論するべき。
	私立高校と県立高校とが持つ役割の違いは何かを踏まえて県立高校のあり方を論じる必要がある。
	「高校」のことを考えるには、小学校、中学校での学び等について情報共有されなければならない。
	地域の教育を考えるのであれば、小・中・高を全体として見なければならない。一番の問題点は、小・中での一律の学習指導の在り方にある。
	県立高校の再編は、将来どんな富山県をデザインしていくかということ。世界に羽ばたく生徒を育てる、富山県に多くの人材を輩出するなど様々な高校を残しておくことが目指す姿として大切。
	10年後、20年後の日本、富山、地域をみつめ、教育をどうしていくべきかを考え始めていく必要がある。国際化、グローバル化への対応を教育においてどう充実していくかという視点が必要。
	再編というのは2次的な問題。まずは高校のあり方をどうするかということの基本にして、これからの時代に生きていく子どもたちにどんな教育が必要なのか、求められる教育の質、それを追求するための改革を進めてほしい。
	どこで学ぶかではなく、何を学ぶか、誰と学ぶかを重視したいと親としては思う。
	子どもの数の推移についてはわかったが、加えて子どもの人口比率を見るべき。それを参考に高校の再編について考えた方がよい。
	格差問題についての議論がない。格差をさらに広げるような高校再編ではなく、格差を縮小する方向での高校再編を議論して欲しい。
	富山県では物事の考え方が古く、学校自体が閉鎖的。真面目過ぎるので、もっと積極的な人材を育てられる高校づくりが必要。
	特色（普、職、中高一貫、定時）をはっきりさせ、それに向けて校名も刷新して、各学区に配置していくべき。
先生が生徒と向き合えるゆとりある環境は、お金よりもウェイトが大きいのではないかな。現場との乖離を感じる。	
選択肢の増、小中から子どもの興味に合わせた学び、定員の考え方(上限)など、どれも大切で子どものためと思うが、少子化という全国的な問題の中、対策も難しい現状でどうするか。予算のこと、教員数、質のこと、同時に何とかしていかなくてはならない問題も山積で難しい。	

内容	ご意見
県立高校の基本的な目指す姿	高校再編に関することだが、社会生活全体に関わっている。どこから考えていけばよいのかが難しい。
	他県と比較してではなく、富山県独自の高校の雰囲気を作っていく必要がある。
	定住とまでいなくても、関係人口となってくれることを条件とした県内企業とタイアップした奨学金を作ってはどうか。
	子育て、教育はまちづくりの核である。以前と違い、呉西・呉東の区別なく高校に通えるようになったことは選択肢が増え、大変よいこと。もう一步踏み込んで、隣の県と協定を結び、それぞれの高校に通えるようにはできないか。
	少子化によって0歳児～中学卒業まで同じ顔ぶれということもある。高校進学は、新たなコミュニティを形成する大事なイベント。高校の選択肢が減ると、場合によっては同じようなメンバーになることもあるのではないか。人との出会いは、大人になっても大きな財産。
	学校単位で取り組むことと、地区単位、県全体で取り組むことが混在している。
	学校は特色化の圧力によって疲弊している。学校がやりたい教育活動に対して必要な人とお金と権限を与えてほしい。
	特色ある教育の特色を決めるのは誰か。新しいことをしようとすると前例のみで判断され、決まるまでに時間がかかる。現場に裁量を与えたほうがよい。
	生徒が減るのに合わせて高校の数を減らしていくと、今まで通り中学3年生が何となく普通科に進むという現状になり、高校も特色化せずに進んでいく。少し我慢してもらおうと、高校の教職員も生徒を呼び込むために、何か頑張らないといけないという気持ちになる。
	多種多様な教育について、それを教員が教えることができるか疑問。専門性を持つ人は「がんじがらめ」の教員より、民間に活躍の場を求めるのではないか。
	定員割れしているから選ばれるように努力をして魅力を高めるという話になっているが、通信制に進学するなど、そこに来までの子どもの育ちや学びがどうなっているのかという議論が必要。
	高校の無償化によって私立も公費で教育が受けられるなら、公平性を抜きにして、とにかく学校の魅力をアピールできる私学に公立が勝てるはずがない。そんな状況で県立校に魅力が無いと批判されることが間違っている。
	欠員が多いのは定員の小さい学校ではないか。提供する学習内容よりも、定員の大きさが魅力との相関性が深いのではないか。
	進学校は、いつかは私立に抜かれるのでは？という想定をしてみる必要がある。
	大規模校は普通科や職業系専門学科だけではなく、両方にあるとよい。職業系専門学科は地域との関わりが深く、普通科だけでは取り組みにくい活動にも取り組むことができる。
地域連携とあるが、県立なので地域とは富山県全体だと思う。報道などを見ていると地域連携の名を借りた市町村のエゴでしかない。	
県立高校の特色化・情報発信の目指す姿	魅力あふれる高校づくりは今後も推進し、その必要性を広めてほしい。魅力化と再編統合は、切り離して考える必要がある。
	一定の通学時間を超えてでもその高校へ行きたいという魅力ある高校づくりが必要。
	特色ある学校はよいが、職業系専門学科で定員割れが起きている。そこに人が集まっていないことを踏まえて考えなくてはならない。
	「特色を出しても生徒が集まるわけではない」という意見があったが、大変参考にすべき。
	県外や通信制に進学する生徒が何を目的に選択しているのかも参考にして県立高校の特色を検討できればと感じた。
	「普通」であることが魅力。砺波地区は1時間に1本の城端線のみ。都会の論理と地方の論理は違う。
あまりにも特色がはつきりしてしまうと、かえって選択の幅を狭めることにはならないのか。	

内容	ご意見
<b>県立高校の配置・規模の目指す姿</b>	生徒が多く選択肢から進路を選べるように全県的な視野に立って高校の配置を考えていく方向に賛成。
	学級数を減らすことなく、学校数も微減にとどめて子どもたちの選択肢を残しておくことが必要。
	現在、高校に通う子どもたちの中には地理的に難しく、アパートや下宿というスタイルで通学している子どもがいる。高校が少なくなると、より通学が難しくなってくるのではないかと。より安心して通える環境になればよい。
	子どもたちが通いやすい学びやすい環境を作ってほしい。不登校が増えており、通いやすさは重要。
	地域の生徒が地元の高校に通うことがよい。地域の中学生が通いたいと思えるよう高校の学科等を修正していくことは大切。
	地域に学校を残すことを考えた場合、そこに行けばすべて賄ってくれる普通に学べる学校があればよい。
	生徒は多様である。「通学可能な地域内に高校をバランスよく配置し、様々なタイプの高校を整備し」生徒に幅広い選択肢を用意することが再編の基本と考えている。
	幅広い選択肢を確保するために、小規模から大規模の学校が必要。
	富山市一極集中の考えを是正して欲しい。それが最終的には県の地勢などを生かした県政につながると思う。
	中央一極化ではなく、地域細分化にしてみてもどうか。
	中央に偏りが出ることにより、子どもたちの選択肢が限られることにつながることを考慮した計画を策定して欲しい。
	高校再編で地元の高校をなくすのはやめてもらいたい。地域交流をなくさないでもらいたい。
	県としては学校の数を減らしたいと思っているが、市町村の中でその市町村名がある学校はトップであるべき。
	13市町にある高校は存続させてほしい。無理な部分もあると思うが、地域振興と高校は密着したもの。
	小規模の学校には魅力がある。大規模校では人が多すぎる。小規模だからこそ、沢山の生徒と関わり、たくさんのことにチャレンジできる。
	小規模校はどうしてよくないのか。1クラス30人の規模であれば担任の目が届くのでよい。
	小規模校がなぜだめなのかの答えは難しいが、全て小規模校はおかしい。
	小規模校の乱立は、人的にも金銭的にもコストの無駄。集約して立派な施設設備を整備したほうが生徒のためになる。老朽化した校舎に愛着はわからない。
	富山市の工業高校をなくして魚津に行ってもらおう、砺波に行ってもらおう。また、中央農業をなくして入善の農業科に来てもらおうという選択肢はないのか。
	再編に反対するつもりはないが、方向性については異論がある。周辺部の高校を無くすのであれば、交通費を無償化して欲しい。

内容	ご意見
<b>県立 高校の 配置の 目指す 姿</b>	学区の見直しはしないのか。
	地域の感覚がエリアによって大きく異なる。
	学校数を精選していくのであれば、①進学校、②普通科単独校＋普通科スポーツクラス、③総合学科、④職業科単独校、⑤複数の職業科のみが集まった学校があればよい。普通科と多くの職業科を設置した学校をつくり、普通科と職業科が交流して様々な科目を選択できるようにすることには反対。
	倍率は学校の「人気度」を示している。その学校の歴史や伝統もあるが、中学生や世の中のニーズに合わせて再編・統合するべき。
	無くなってしまふ高校がなぜ選ばれたのか、納得のいく説明が必要。
	大規模校は何学級を想定しているのか。大きすぎるという問題もあるので、その議論が必要。
	大規模校というのは何クラスなのか。
	様々な人間、多様な人間と数多く交わることができる大規模な学校が多い方がよい。
	体育館やグラウンドなどの施設を考えると4～6学級が適切。3学級では部活動をはじめとした活動ができなくなる。部活動については、男女比を考えると5～6学級ないと十分な部員の確保ができない。
	学級数は6～7クラスが望ましい。子どもの数が減ったら学校も減らすべき。
	他県に比べると、富山県の学級数は大規模と言われる学校が少ない。10学級くらいの学校を目指した方がよいのでは。たくさんの生徒がいることで多様性を学ぶよい機会である。
	人間形成には部活動の経験が大変重要。部活動の充実には大規模な生徒数が必要。全国募集の特色も出しやすい。
	高校生に少人数学級は不要ではないか。じきに社会や大学に出る段階であり、大人数の中でのコミュニケーション能力や人間関係を築く能力を育むべき。対人関係をうまく構築するスキルが不足ぎみ。
	部活動や学校運営を考えた時、大規模な学校が多い方がよい。
	いろいろな部、ある程度の部員数、指導者数を組むためには、教員数、外部コーチが必要で、学校規模は必要。
	大規模校の検討に賛成。子どもが小規模校で小学校生活を過ごし、当初は目が行き届き望ましい環境と期待したが、結果としてとても息苦しい生活だった。
生徒の選択肢を確保するためには、ある程度の規模が必要。大規模校を富山市に集中させるのではなく、各地区に分散させ、足りないところを小規模校で補うとよい。	
小規模校はあってもよいと思うが、生徒が成長過程で多様な考え方に触れるためにはある程度の規模が必要。	
富山県だけでなく、北陸という枠組みの中で予算を出し合い他県との要素を組み合わせた大規模校をつくることはできないか。	
<b>県立 高校の 目指す 姿</b> (連携)	学校の仕事を遠慮なくPTAや地域にお願いしやすい風土を醸成していけるとよい。
	PTAとの連携、PTAを巻き込むことが必要。
	高校は広域から生徒を受け入れるため、小・中学校のように詳細な情報が把握できない状況ではないか。具体的には、キャリアパスポートの活用をより充実させ、中・高連携を一層深めることが大切。
	教員や施設を共有する、行事や部活動を共通にするなど高校同士が連携してはどうか。

内容	ご意見
<b>学科・コースの見直し</b> <b>(各学科共通)</b>	アントレプレナーシップ教育について単に起業家精神、起業家育成にとらえず、正しく広めてほしい。
	大学コンソーシアム富山との連携を進めてほしい。
	ある高校では非認知能力を重視していると聞いた。知識ばかりではなく、社会で生きていくための力を身に付けられるような学びをどこの高校でも実施してほしい。
	保護者の視点からは、進学後の就職まで含めた教育の在り方を考える必要があると感じる。どの高校へ進学しても、卒業後の就職や豊かな人生を考えて、「富山が好き、富山で働きたい」と思えるよう、キャリア教育、ふるさと教育等の充実を中高でも進めていけるとよい。
	芸術はすぐに身に付くものではない。人間を創造していく基盤になる教科で、すべての学科に通じるもの。伝統への後継者育成を視野に入れた芸術分野に焦点をあててほしい。
	学習内容が高度化し過ぎて、高校生は勉強が大変で忙しい。ゆったりとしたカリキュラムで将来のことやキャリア形成を考える機会が持てるようにすべき。
	普通科と他学科の壁を超えて地域課題を解決できるような「探究の学習」ができればよい。
	提言にあげられる学び（探究学習、地域との連携、DX、アントレプレナーシップetc.）は、教員全体のコンセンサスがとれないまま一部だけでやっている現状。とても大切な教育だと思うので本気で取り組んでほしい。
	ICT、グローバルなどは、魅力・特色というよりも、全体の教育条件として高めていかなければいけないこと。
	ICTの効果的活用について情報の先生ばかりに頼りすぎではないか。どの教科でも活用は可能。
	県立高校だけでなく、就職先として幅広い企業の選択肢があるとよい。人の県外流出に歯止めがかかっていないことと関連して、行政、企業とも連携して取り組んでほしい。
	県内には働くべき場所がないと思われる。高校の段階で富山の産業に関わる機会を多く持ち、県外の大学に行ってもUターンしてくれるよう促してもよい。
	富山県には博物館、美術館が70以上ある。それらの施設をもっと活用してほしい。探究の時間に利用してもらえば現場の負担もないのではないかな。
	近隣の大学と連携し地域の課題解決に向け、優れた人材育成につないでほしい。
	魅力ある高校は当然。在学中、学習しながら将来の進む方向が見えてくるような教育ができる高校、基礎学力が十分に身に付けられる教育が可能な高校、人間形成、たくましい若者を育てる高校、世界の上位となる学力を高めることができる教育、自主的に学習しようとする生徒を多く育てる高校があるとよい。
	18歳成人になった時に就職・進学をさらに深められる生涯教育、学び直しやコース変更があってもよい。実社会に生かせる学びが提供される地域の学校を望む。
	他校の授業をオンラインなどで受講できるなど、子ども達が楽しめる授業があってもよい。
予測困難な時代において、自分自身の特徴を生かした武器を得ることが大事。そのためには、インターンシップなどの体験を増やすことが大事。人生の基礎づくりにつながる。	
カリキュラムに就労体験学習を位置付け、産学連携を売りとする高校は魅力ある学校の選択肢の一つになる。	

内容	ご意見
学科・コースの見直し (各学科共通)	<p>富山県には自然、工業、伝統工芸など多くの資源がある。それを生かすために柔軟なカリキュラムのコースを作してほしい。</p>
	<p>音楽、芸術系が少ないのは県としてまずい。そこに根付いた息吹として伝えていく事は必須にしていけばよい。</p>
	<p>伝統文化も後継者不足になっていく。すぐには育成できないので、地域と連携し、美術、音楽などの芸術分野で長期的な考えを持って取り組んでいただきたい。</p>
	<p>富山にある伝統、資源に高校生が触れ、富山の学びを深める機会を作っていくことはとても大切。</p>
	<p>入学後に学科、コースを選択できる事も必要だが、高いレベルを目指して、入学時に学科、コースを選べる学校も必要。</p>
	<p>新しい取組みを行う際には、それに見合った人員配置が必要。</p>
	<p>特色ある学科・コースの見直しといった枠組みとともに、教員の資質向上を図っていかなければ、子ども自身が魅力を感じる学校には近づけない。</p>
	<p>学科、コースの特色や教育内容の見直しは専門学科では大変重要。ただし、指導できる環境（ソフト、ハード）をセットで考える必要がある。</p>
	<p>スペシャリスト育成校について、スペシャリストを育成できる先生はいるのか、誰に学ぶのか。</p>
	<p>色々な科目を自由に選択でき、入学後に進学から就職まで選べるような学校があるとよい。</p>
	<p>1年生で共通の科目を学び、2年生からそれぞれのところを選んで進学するというような形態が可能かどうか検討する必要がある。</p>
	<p>中学3年生の多くが「高校で何ができるか」に関心を持っているが、「将来何になりたいか」は、はっきりと決まっていない。</p>
	<p>将来何になりたいということが決まっていない中学生が多い。窓口は幅広く募集し、学年進行で方向を絞っていくというような学校を作っていけるとよい。</p>
	<p>コース変更のフレキシビリティの確保が必要。</p>
	<p>入学前に決断できる生徒が入学する職業科や進学科があってもいいが、決断できない生徒が入って後悔しない学校・学科を整備してほしい。</p>
	<p>すべての高校生が学校に適応できているわけではない。一人一人のきめ細かな対応のためには少人数学級を推進していくことが必要。また、多様な学科を設け、例えば、進学から就職へ進路が自由に変更できるようにすべき。</p>
<p>細かい学科、コースを入学時に決めず、1年もしくは1年半を一般教養に充て、その後、専門の学科、コースから幅広い進路選択が対応できるとよい。</p>	
<p>入学後に選択できるコースを増やして欲しいという意見は中学生や保護者の立場を考えれば当然だと思った。一方で、それを実現するための人的・環境的・財源的な対応ができる見込みはできているのか心配になった。</p>	

内容	ご意見
学科・コースの見直し (普通系学科)	普通科志向が高いのであれば、普通科のある高校の数を絞り、コース等も含め、カリキュラムを工夫して各校に特有の特色を持たせるとよい。
	普通科は進学で押すしかないのではないかと。「偏差値40から東大を目指す教育」も十分特色になりうる。
	普通科の中でも、進学だけに向かうのではなく、キャリア教育を充実させ学びながら進路選択ができる学科・コースがあればよい。
	本当は普通科に行きたいけれど、学力的に問題というのであれば、易しい普通科（一般教養科）みたいなものがあればよい。
	普通科に入学後、職業系コースや進学系コースを選択できるとよい。
	漫然と大学進学のための3年間とならないよう、普通科と職業科が融合した学校ができると子ども達の進路選択に有効と期待する。
	普通科高校の生徒が県外の大学に行っても多くが富山に戻ってこられる教育を高校の中でしてほしい。
	中学段階で明確な将来を見つけれないので普通科へ行くのであり、普通科に特色を求めることは違う。
	普通科に特色は不要。どこへ行っても変わらない普通科があればよい。
	普通科にも特色があるのに他の科が増えていけば普通科の倍率だけが高止まりするのではないかと。
学科・コースの見直し (職業系専門学科)	ものづくり人材創出のルートがいくつかあるが、工業科と高専、県立大の住み分けが必要。工業科の役割を高専に移管してもよいのではないかと。
	新しい工業系学科を検討していただきたい。科学技術高校なども必要ではないかと。他県とは異なる富山県版の科学技術高校に期待する。
	工業科等の特色ある学校で定員割れしているが、魅力を感じるかどうかは生徒が考えること。
	地元企業からは、資格取得より生徒のアイデアによるコンクール出場の機会を作ればよい、高校時代にできる活動をさせてほしいと聞いている。
	中学3年生の段階で、機械、電気、電子などを選択するのが難しい生徒もいる。一括りで入学し、その後自分で選択していく方法もある。また、工業高校に女子が学びたいと思いきやすい新たな学科を開設するのもよい。
	一括募集をして、1年後半から専門科目を学ぶ場合、専門性を極められないのではないかと。また、人数制限により希望の学科へ進めない生徒が出るのではないかと。
	専門学科については、予算が許すのであれば、少人数募集とし、地元企業と連携しながら学べるカリキュラムを設定するとよい。
	職業系専門学科を充実させるために、教職と専門を両方理解している人材を取り入れる方策が必要。企業や他県と競合になっている現状があり、集まらない。
	農業科の魅力化として「テクノロジーを活かした農業教育」と書かれている。この他、畜産、6次産業化、IT、工業デザインなど様々あるが、専門職員、専門施設をどうしていくかが見えてこない。
	産業への就業が重視されているが、基礎をしっかり身に付け、創造性が豊かな教育の実施を求める。広く浅くでもよいのではないかと。
儲かる農業を専門的に教えてほしい。	

内容	ご意見
中高一貫教育校	中高一貫校とバカロレアは、誰が望んでいるのか疑問。
	生徒数が減少する中、これから中高一貫、バカロレアを実施するのは難しいのではないかと。今あるものをより充実させていった方がよい。
	高校進学時に進路を決めることが難しい中学生が多いことから、中高一貫校であれば良いのではないかと。ただし、受検ということから小学校、中学校、保護者の意見がどのようなものか。
	保育所、小学校、中学校が各1校しかないため、0～15歳まで同じ友達になり交友関係が固定化する。中高一貫校を作り選択肢を増やしてほしい。
	中高一貫教育校に関連して、色々な生徒がいる中にはやはり向上心の強い、将来、世界に出て、或いは日本のために大活躍するような人たちもいると思う。そういう子ども達をうまく引っ張り上げるようなことを考えてほしい。
	中学生の学力が二極化していると聞く。中高一貫校を各市町村につくり、希望者は中学受験をしその学力に合った授業を受ければよい。また、様々な理由で学校で授業を受けられない子どもたちの学ぶ場の確保を最優先させることも大切。
	中高一貫教育校を選ぶかどうか、中学校へ行く段階で決めなければならない。富大附属中学のように、中学受験をして入学生を決める必要があるかどうかを考えてもらいたい。
	中高一貫教育校にはメリット・デメリットがあるが、富山県の制度や風土に合ったものを検討してほしい。
	中高一貫教育校を設置する場合、どのような特色を持たせるかといった方向性が難しい。
他県から富山県は面白いことやっているな、行ってみようかと子どもたちが流入してくるように、例えばバカロレアや、中高一貫教育校など富山県独自の形で開発してほしい。	
国際バカロレア認定校	グローバル人材の育成は重要であり、国際バカロレア認定校は県内に1校あってもよいと思うが、学習指導要領とのマッチングや海外留学の際の保護者負担などハードルは高い。まずは、現在も行われている海外研修やオンラインを含めた国際交流など、探究学習の充実やグローバル人材の育成を加速していくことがよい。
	国際バカロレア認定校の導入は、すぐには難しいが、学びのスタイルをとり入れ、次の段階としてニーズが高まれば導入していくということになると思われる。
	以前PTAの意見で出した国際バカロレアを即、今日の資料でみることでできたのは嬉しい反面、自分の子には間に合わないのかと忸怩たる思いもある。
	国際バカロレア認定校は子どもの選択肢にとってはよいことだと思うが、人的、資金的にリソースが限られている中、県がお金を使って、卒業後に県外や海外に出て行ってしまふ人材を育てることが正しいのか。
外国に別入生る生徒	外国人生徒に係る特別入学枠は、行政の視点から見通しても、極めて優先度の高い政策になり得る。
	外国人労働者が増え、一緒に生きていくなれば相互に関わる学習も必須になる。ルビをふるだけの対応ではお粗末に感じる。
	外国人生徒を受け入れる場合、日本語での学習を深められるように、日本語能力を育成する場を学校の内外に設ける必要がある。

内容	ご意見
全国募集	全国募集と外国人生徒に係る特別入学枠を併せて検討できないか。富山県の観光資源に関心を持っている方はいる。県外、国外に発信していけば、富山県の観光振興にも寄与する。
	県外に寮付きで、2週間の海外留学に全員参加でき、その保護者負担金2万円台という全国募集をしている公立校があった。そこは大人気であるという。そのような思い切ったことをしないと全国から高校を選んでもらえないのではないかな。
	農業、漁業等の学科を求めて、他県からの入学を希望する生徒が現存すると聞く。全国各地からの募集を行うことに賛成。
	部活動に特化して、県外から生徒が来られるように寮を建設してはどうか。
	部活動の全国募集は賛成。県外への流出は部活動関係が多いのではないかな。石川県のように希望する学校に全国から受け入れられる制度を作って欲しい。
	呉羽高校の音楽コースは、音楽教育の中では全国的にも非常に成果をあげている特色あるコース。全国募集にしたなら全国から入学し、学びたいという生徒がいるのではないかな。
	全国募集というテーマにあえて絞れば、「南砺平」という高校名が、とっつきにくい感がある。親しみやすい名前に変えることや、それが難しければ愛称があるとよい。
	南砺平高校で全国募集をするのであれば、世界遺産があるので観光関連の起業など観光資源を活かせるコースや学科があるとよい。また、中高一貫教育校とするならば、中学校段階からワークショップなどで起業体験ができるとよい。
	全国募集する学校の特色として、郷土や中山間地ではありきたり。例えば、データサイエンス、グローバルなどその対極にあるものを2本目の軸とし、生徒自身が裁量を持って決められるという特色があるとよい。
様々なタイプの学校・学科	他県にはない先進的な取組みとしてバカロレア、外国人生徒に係る特別入学枠、留学生受入など国際化モデル学区を設置してはどうか。
	南砺総合高校のように、近くの小規模校を一つの学校とし、行事の時に集まるといった方法もよい。
	徳島県の神山町に作られた「神山まると高等専門学校」（設立2年目）の設立への過程とカリキュラムを知り、子どもを行かせたい学校と感じた。
	民間（私学）が可能なことを公立学校が競争的に行う必要があるのか、なぜ私立の定員が充足しているのかよく考える必要がある。
	将来、様々なタイプの学校が準備（設置）されたとしても、今の県立高校の感覚（来てくれることがあたり前）では、中学生には伝わらない。
	富山県には公立の中高一貫校もなく、バカロレア校を作ろうというような意識も低い。教育改革に向けての動きが鈍いのではないかな。
	今の子どもたちは、兄弟が少なく、地域の人からの声かけも少なくなる傾向にある。年齢や世代を超えての交流や学びあいの環境が大切。学びたい大人もシニアスチューデントとして学び、また教えられたらよい。
	外国人生徒や発達障害を有する生徒のために、学校生活を支える支援員の配置を検討して欲しい。
	生徒の実態を捉え「定時制・通信制」についての具体的な説明があるとよい。
不登校傾向のある生徒や発達障害を持つ生徒でも入学しやすいような県立高校のあり方や入試制度の見直しについても検討して欲しい。	
不登校生徒枠（内申書を合否判断に用いない枠）が全日制高校にあるとよい。定時制・通信制しか選択肢がないということを何とかできないかな。	

内容	ご意見
様々なタイプの学校・学科	不登校生徒、若者の自死が増えている。そういった生きづらさを抱えた若者たちがどんな学校生活を望んでいるかということに耳を傾ける必要がある。
	高校での特別支援教育の充実。通信制、定時制という選択のみにならないよう、開かれた高校教育を希望する。
	定時制の教員として、入学後に成長していく生徒を見ると、この学校があっただけよかったと思う。
	通信制の充実、色んな分野の教育があっても良い。
	発達障害の数が増えているが、教える側が手厚ければクリアできることも多いと思う。
	「発達障害児の療育に特化した高校」はニーズが高いのではないかな。
	発達障害児が増えている。そういうお子さんが特色あるコースでやっていけるため支援などあるとよい。
	自閉症・情緒障害特別支援学級在籍生徒が高校へ進学しているが適応できずに退学するとも聞く。特別支援教育の専門の教員に指導をしてもらいながら、特別枠校へ専門教員を配置し、連携しながら高校教育を受けさせてあげたい。
	砺波学区から通える高等支援学校が高岡にしかない。砺波学区の高校に高等支援を併設しインクルーシブ教育を行うような発想はできないかな。
	特別支援級（情・障）のお子さんの受検について公立での受入れは配慮があるのかな。
	通信制の生徒数が増加している。要因は分からないが、もっと余裕があり、自分のやりたいことができることが必要ではないかな。
	色々な情報にアクセスできないご家庭もあるのは事実。公立高校として、何らかのセーフティーネットとしてのあるべき姿も考えられるべき。
	部活をアピールする高校があってもよい。
	県に2つ（東西）、運動の部活に特化した学校があるとよい。
	県外へ進学する生徒は部活動を目的としている。メジャーな競技（野球、サッカー等）は、私学が頑張り、ホッケーやハンドボール等これまで実績をあげている競技は引き続き県立で頑張る。公私協力して県全体で生徒の流出を止めて欲しい。
	部活動のあり方も関連するが、部活動で全国大会に出場することは地域が大いに盛り上がる。部活動はやはり学校の特色になる。
スポーツの各競技に特化したコースもあってもよいのではないかな。	
様々な分野で活躍する人材育成面を考えると、公私立高校で部活動の面でも特色を色濃く出していく必要がある。	

内容	ご意見
その他	意見交換会で再編の議論がされていないと感じる。
	働く場の確保のイメージが大きく、教員ファーストに感じた。
	何の会かよく解らなかった。
	教員の採用倍率が下がっていく中で、教員の質が確保されるのか疑問。再編の理念、教育内容の考えが素晴らしくても実効性が無いのでは本末転倒。教員の質を確保いただきたい。
	先生方の負担軽減も主眼の1つとした検討が必要と感じた。既成概念を取り除いた負担軽減を検討してもよい。プロボノの活用余地もあると思う。
	各種の改革がなされることはよいことだが、現場で働く先生方の負担軽減をお願いしたい。
	受け皿となる大学が少ないため県外に出ていく学生が多く、帰ってこない。県内に残る高校生を大事にするべき。
	公平だけが正義ではないかもしれない。子どものやりたい道に進めたいと思う保護者は、県外でも私立でも、海外でも進ませている。それが現状として流出になっている。
	他県へ流出している生徒が増えていると聞き、高校の魅力化は再編抜きにしても必要なことだと感じた。
	他県に生徒が流出する原因分析と対策も講じて行かないと、学校規模や再編を考えていく際にも支障が出てくるように思う。
	部活動などで砺波学区の生徒が石川県に進学しているが、魅力さえあれば距離が遠くても高岡学区の高校を選ぶ可能性もあるのではないか。
	金沢の方に通う子どもが増えていると聞く。そこには県内にはない魅力があるのかと思うが、分析はされているか。
	現在、孫が金沢市の私立高校に通っているが、県内の学校との違いは何なのか私には理解できない。
	あいの風とやま鉄道のダイヤや、県立高校の授業開始時刻が現状のままならば、新川地区から富山地区への流出過多の流れは止まらない。
	山間部に住んでいると東西の交通の便が悪く、様々な選択肢が得られない。バイク通学を可能にして選択肢を増やすようにする可能性はあるか。
	県立高校に通っている生徒の通学費を無償にしてほしい。
	自宅から公共交通機関で通学できない生徒がいる。交通費用の補助という意見があるようだが、交通方法の補助も検討してほしい。(バスの増発や学校によるタクシーの手配等) 中学生が通学事情によって本当に行きたい高校をあきらめなければならないのはかわいそう。
通学に関してネックにならない支援が必要。	
子育ての一環として、公共交通機関の無償化を是非実施してほしい。	

内容	ご意見
<b>その他</b>	高校の校舎は耐震化対策によって鉄筋が施されているが、生徒が学ぶ環境としてはとても残念。高校再編等の議論とともに、校舎の新築についても充分検討していただきたい。
	人口減というピンチをチャンスにするための新しいアイデアが出てくるのはよいことだが、それを実現するためには高校の統廃合を進めてエネルギーと予算を集中していく必要がある。
	きれいな学校は魅力的。オープンハイスクールでも、きれいな学校に魅力を感じた。
	子どもが減っていくからこそ、しっかりと予算等をつけて、より教育を充実させていくチャンスという認識が欲しい。
	学校再編・改革をするには、やはり財源確保が重要。
	高校の魅力はソフト面だけでなく、ハード面も大切。新しい校舎、施設の私学に流れている。県外の公立高は、校舎が魅力的で教育に投資しているように感じる。もっと教育に投資をしていただきたい。
	現役高校生を中心に中学生、直近の高校卒生の方々、若手職員の声を多く拾う機会を検討してほしい。
	高校生、もしくはこれから高校生になろうとしている人、つい最近まで高校生だった人の考えを、しっかり吸い取ることが重要。そういう人たちの考えを中心に据えていくことが大事。
	10年後、20年後の教員、そして生徒の意見は貴重。
	現場の若手職員の意見を聞いてほしい。
	アンケートをとったとのことだが、中学生と高校生の声を聞き続けてほしい。
	子ども中心と言うならば、子どもの声を聞く、子どもの様子が一番わかる教員の声を聞く姿勢が必要。
	中学生や高校生の意見等は反映されているのか。
	高校生の意見を入れて議論していかないといけない。
	その高校のことを一番知っているのは生徒と教職員、現場の声を聴いて欲しい。
	子どもたちが求めるものを提供したい。大人が必要と思っている学科や校風などは、違う世界があるのではないか。
	県でウェルビーイングを掲げているのは大変素晴らしい。大人だけでなく小・中・高・大・大人とウェルビーイングの指標を用いた調査をして向かう方向を明らかにしたらよい。
	時代の変化がこれだけ高速になっているのに、県民、行政、教育関係者ともにおかれている視点がごく目の前にしかなく、それぞれの利害ばかりを押し付けているように見える。本当に子どもまんなかであるならば、これまで以上に生徒に関わってもらうことが求められる。
	小学生の保護者が何を重視しているか聞くべき。
	自分の思考の枠を超えたところに望む答えがあるので、「どうしたいか」という答えを中・高生自身は持っていない。デザイン思考の考え方で、意見の中から要望のもととなる気づきを得る過程が有効ではないか。
富山県について学ぶ講演のテーマのひとつとして高校について取り上げることで、みなさんの意見を合わせてはじめて「富山県の高校の考え」というものになる。	
富山の高校教育が魅力あるものになっていくとよい。今回のようなオープンな場があればみんなで考えていける。	

内容	ご意見
その他	意見交換会のような場で発言できないサイレントマジョリティの意見も重要。
	意見交換会への女性の参加率があまりにも低い。子どもを間近に見てきて思うこと、感じるものがたくさんあるはずの彼女たちの意見はどれだけ入っているのか。
	ワークショップの構成員に女性が少ない。また、当事者生徒に参加してもらうべき。わからないから県外に流出するのだと思う。
	オープンハイスクール、再編に関わる大人が参加し学校の姿を見てもらおうとよい。
	地域の方々の意見を次回のワークショップや総合教育会議でも考慮していただきたい。
	発言した内容をつまみぐいでなくすべての観点を記録として残し総合教育会議で紹介してほしい。
	特色化・魅力化は、本当に子どもたちが願っているのか。中学生の学校選びの基準などについて、例えば小6～中3の子どもたちにアンケート調査をしてほしい。
	中学生の進路選択として、高校の学科・コースもあるが、学力・部活も大きく関わっている。
	魅力、特色＝メリットだと思うが、子ども、保護者、先生、地域にとってそれぞれ違う。子どもにとってメリットとなることを重点にしてほしい。
	地域連携を考える場合、地域を動かしている方の意見も踏まえた上で検討が必要。
	目指す姿は良いが、現在どのような課題があるのかわからない。高校は国公立大学進学が至上目標という旧態依然のまま。大きな変化を行い高校をゼロから再構築するつもりでやって欲しい。
	志願倍率や進学、就職実績で学校を評価している現状について立ち止まって考えるべき。難関大学に合格することは喜ばしいといった価値観が変わらなければ、県外に流出する生徒が増えていく可能性がある。
	どんなに特色ある教育を行っても最終的に求められているのは有名大学への進学実績。富山県民全体の意識改革が必要。県民全体が多様な進路、子どもたちの生き方を認められる器、素養を同時に養っていけるような工夫をお願いしたい。
	普通科の国公立進学偏重は根強い。報道の在り方も含め、県民の意識、変革をリードする県教委の姿勢転換・発信が必要。
	偏差値による輪切りにより、単一の価値観に基づく単一性質の人の集団ができることは、生徒の成長というところでも問題がある。そういうところから脱却するような高校改革であってほしい。
	大学の合格者数の報道がされているのは、富山県を含め全国で3県。県教育委員会には、そういった県民の意識を変えていくというところのリードをしてほしい。
	子どもの観点から見て、高校選択の決め手は学力の適正であると実感している。この問題は、中学校の進路教育、高校の特色の発信、どちらもが不十分であるため。「偏差値至上主義」の認識を是正し、一人一人の進路実現の達成を支える高校学科設置、進路教育が必要。
	富山県全体として高校の評価を難関大学合格者数で測る傾向が強すぎる（新聞にも掲載される）。それが改善されない限り学校現場は変わらない。
	地元企業に就職することが増える学校、国公立ありきの進路指導をしない学校が必要。
	入試偏差値では測れない魅力的な活動を行い、生徒の自己肯定感を高めようとしたが、そのディテールを中学生に伝える難しさを感じた。
倍率または実績重視だとマイノリティーが淘汰されてしまう。	
わかりやすい数値（合格数、倍率）から、もう少し複雑なところにもっていく意識が大きな変革（中高一貫の導入など）には必要。	

内容	ご意見
<b>その他</b>	学校規模の議論と学級規模の議論が混同している。一定の学校規模も欲しいが学級規模は小さく、そのためには国にしっかりと求めていく姿勢が必要。
	「学校規模(生徒数)」と「授業の単位数(40人か少人数か)」は別問題。1学年240人(40人×6学級)の大規模校でも、2クラス3展開で少人数の授業を行うことができる。
	少人数の教育は、メリットが多いと思うが、すべての高校に導入するのはどうかと思う。少人数を導入すべきは、小中学校で、高校は少人数の学校も選択できるでよい。
	少人数授業の良さもあるが、多様な考えに触れ自分の考えを深めていく場合には少人数では効果が限定的であり、一定数以上の生徒がいることが望ましい。
	1クラス30人にした場合のコスト等、どんな課題があるのか明らかにして、それも選択肢として議論すべき。
	40人学級の定数見直しについて、県独自の取組み(予算化)として進めてほしい。
	少人数学級を進めるべき。30人×8学級=240人の学校であれば、かなり大規模でないか。
	少人数学級を進めることで学級減を抑え、小規模校から大規模校を今と近い形で残せるのではないか。
	県立高校再編ありきではなく、少人数教育のメリットも十分に考慮して、慎重に進めてほしい。
	少人数学級では、多人数のプレッシャーなく学びやすい、意見を述べる機会が多く意見を言いやすい、生徒一人一人の様子がわかりやすいといったメリットがある。国の学級編制基準を変え、30人等少人数学級を充実できる教育環境が必要。
	高校における少人数指導を実施することで、生徒一人一人の育成、希望する大学や就業につながるのではないか。
	各学校で工夫してやっている特色ある取組みを情報発信することが必要。そのためにはSNSといったプッシュ型がよい。
	県立高校のHPをもっと見やすくわかりやすく、行ってみたいと思えるHP作りをしたほうがよい。
	保護者としてもその高校ならではの特色を知る機会があればよいと思う。各校の紹介動画などをHPに載せることで生徒や保護者、中学校の先生方が情報を得る機会になる。
	県立の学校が進学、就職、部活動等、多方面で活躍し、こんな成果を残している県は他にない。マスコミの人にももっともって県立の魅力をPRしてもらえるとよい。
	オープンハイスクールのスケジュールを考えて作ってほしい。
	新しく設置された学校、学科を、いかに中学生へ周知・アピールできるかが重要。
	特色ある学校というのはいいが、それならば各学校が独自の入試試験というものを考えていく必要がある。
	特色魅力ある教育課程の実現とあるが、現況行きたい学校より、受かる学校に行っている。将来「入試」は必要なのか。
	入試をやめたら幼小中の主体的な学びがぐんと進むと思う。
入試のあり方を見直すべき。	
県立高校すべてが同じ問題を実施するメリットとデメリットがあるのではないか。各高校が必要とする学力(能力)を問題に反映することで、高校で学ぶ意欲につながるのではないか。	